

## 第126回簿記検定試験 3級 出題の意図・講評

### [第1問]

本問は、3級の出題範囲に属する簡単な仕訳を問う問題です。

実務では、様々な債権債務が生じますが、正確な仕訳を行うためには前払金・前受金、立替金・預り金などの債権債務の特徴について正確な理解が求められます。債権債務は、取引先や従業員等に対する現金等の決済を伴うものですので、実務上、特に正確な記録が要求されるものです。

小口現金の処理は、主要簿の記帳を行う担当者と小口現金出納帳の記帳を行う担当者の業務が分掌されていることが前提となっています。日々の小口現金の増減の記帳は、小口現金係が行いますが、仕訳帳への記帳は会計係などが一定期間まとめて行うというイメージになります。

売買目的有価証券は、決算日に時価評価が行われますが、期中の売買処理自体が行われれば売却損益を取引ごとに把握するのが一般的でしょう。

家事用の電気代は、店主個人の家計から支出されるべきものであるため、企業から支払われた場合には資本の引出しとして処理します。

### [第2問]

本問は、各取引から、記入すべき補助簿の特定を問う設問です。したがって、まず、各取引について仕訳を行い、取引の全体像を把握します。そして、その仕訳で用いられる勘定科目と同じ名称のついた補助簿の欄に○印を記入していきます。

仕入に関する取引については、仕入取引はもとより、仕入戻しや仕入値引きについても、仕入帳に加えて商品有高帳にも記入する必要があります。また、売上に関する取引についても、売上取引や売上戻りについては、売上帳と商品有高帳にも記入しなければなりません。売上値引については、売上帳に記入する必要がありますが、原価で記帳される商品有高帳に記入する必要はありません。この点が理解できていない答案が散見されました。

- 10月 5日 為替手形の引き受けを求められていますので、手形債務が生じる取引です。また、発送費を現金で支払っている点も見逃してはいけません。
- 10月12日 約束手形を裏書譲渡されているため、手形債権が生じます。また、小切手の振り出しについては、当座預金の減少として記帳します。
- 10月17日 すでに掛けで売り渡した商品の値引きを承諾したときは、売上時と反対の処理を行うことにより、取引の記録を取り消します。
- 10月20日 代金として為替手形を振り出しても、振出人にとっては名宛人に対する売掛金が減少するだけで、手形債権も手形債務も生じない点に注意する必要があります。

10月27日 送金小切手を受け取ったときは、現金勘定で処理する点に注意しなければなりません。

### **【第3問】**

本問は、期中の経過時点における残高試算表に、ある月の取引データを加えたうえでの残高試算表を作成する問題です。取引データは、現金および当座預金に関する取引、仕入れおよび売上げに関する取引を中心としており、期中において繰り返し行われる取引の集計を主な論点としています。

各取引は、残高試算表に与えられた勘定により容易に処理できるものばかりですが、資料（B）の中には重複する内容の取引が含まれていますので、二重転記（二重集計）を行わないようにする注意が必要です。具体的には、現金仕入高、当座預金からの現金引出高の取引が資料の中に重複して記入されています。また、当座預金に関する取引の中に、給料の支払額が含まれていますが、所得税源泉徴収額の差引後となっていますので、給料支給額の計上にはこれを加味する必要があります。

取引の仕訳を行った後は、それを勘定科目ごとに集計し、資料（A）の残高に加減する計算を行います。取引を仕訳し、それを集計して試算表を作成することは、簿記の基本を身に付ける上でも重要なことです。集計を正確かつ迅速に行えるようになるまで、繰り返し練習を行うよう心掛けてください。なお、勘定金額の集計にあたっては、取引と仕訳、帳簿記入（補助簿を含む）の状況を理解し、情報を整理することが大切です。技術の習得には練習が不可欠ですが、単なる作業とすることなく、経営活動における取引の状況を意識しながら学習してください。

### **【第4問】**

本問は、伝票会計の問題ですが、入金伝票、出金伝票および振替伝票の三つの伝票を用いて行われる会計処理を問う問題です。この三つの伝票を用いた会計処理は、伝票会計の中でも基本的なものです。この点の理解が欠けていると、5伝票制、7伝票制というこの延長線上にある、さらに複雑なものとなる伝票会計の理解が困難になると思われますので、3伝票制による会計処理の理解は伝票会計の基礎として極めて重要です。

本問の解答に際しては、何よりもまず、取引の仕訳がきちんと行われていることが必要になります。伝票への記入は通常の仕訳を基礎として、この仕訳を分解して記入が行われるので、適切な仕訳なくしては、解答はできないこととなります。本問では、「入金伝票、出金伝票には実際の現金収支額のみを記入するものとする」との条件が付されていますので、仕訳上に示されている入金額あるいは出金額を、それぞれ入金伝票あるいは出金伝票に記入をすればよいこととなります。それゆえ、取引の一部に掛売や掛仕入を含む取引について、一度振替伝票に取引全体を処理し、その後入金伝票や出金伝票で入金額や出金額を記入するというような処理法は解答としては不可となります。もっとも、解答欄には適宜勘定科目や金額が記入されていますので、これらをヒントとして活用すれば、このよう

な問題が生じないと思われます。

上述したようなヒントの存在などを考慮すればさほど難しい問題ではなく、点数をとりやすい問題であると考えられますが、得点状況は必ずしも高くなかったように思えます。この問題について十分な得点を得られなかった方は、是非もう一度、伝票会計についての理解を確実なものとしてください。

### **【第5問】**

本問は、会計期間を1月1日から12月31日までとする名古屋商店の平成21年度末における精算表を完成させる問題でした。残高試算表欄の数値をもとに、[決算日に判明した事項]および[決算整理事項]を修正記入欄に記入し、損益計算書欄と貸借対照表欄に移記します。

いずれも極めて基本的な事項ばかりでしたので、きちんと学習を積み重ねていれば、正しく仕訳できるはずです。たとえば、[決算日に判明した事項]により、受取手形や売掛金の残高が変動しますので、修正後の残高にもとづいて[決算整理事項]の貸倒引当金を設定する必要があります。また、給料日後、決算日までの給料が未払いになっていますが、従業員3名分を計上することにも注意が必要です。さらに、売買目的有価証券では1株当たりの時価と株式数が与えられていますので、解答者が決算日における中京電力社株式の時価を算定し、帳簿価額との差額を有価証券評価損または有価証券評価益として計上する必要があります。

本問の得点状況はまずまずでしたが、ここで確実に得点することができたか否かが、今回の検定試験での合否を左右することになったようです。今回の精算表の問題で伸び悩んだ方はもう一度、基本に戻って復習を行ってください。指導にあたられていらっしゃる方に対しましては、改めて基本に忠実に学ぶことの重要性を学習者に強調していただきたいと思ひます。